

# インフォメーション

# 幅広いアプローチ活動だより(43)

#### 1. BA 運営委員会を開催

4月23日に六ヶ所の国際核融合エネルギー研究センターにおいて、第12回 BA 運営委員会が開催された(図 1 参照). 参加者は、欧州から、カリニャーニ・ディ・ノヴォリ欧州委員会研究総局エネルギー局 K 5 ユニット長(欧州代表団長)を含め委員 3 名(1 名は TV 会議で参加)と専門家 3 名が、日本から、鬼澤文部科学省大臣官房審議官(日本代表団長)を含め委員 4 名と専門家19名が、これに加え3事業の事業長及び事業委員会議長(代理も含む)の計33名であった。

今回の運営委員会では、国際核融合材料照射施設の工学 実証・工学設計活動(IFMIF/EVEDA)事業、国際核融合 エネルギー研究センター(IFERC)事業及びサテライト・ トカマク計画事業のそれぞれの2012年年次報告及び事業計 画の改訂等が承認された。

IFMIF/EVEDA事業では、リチウムループ試験施設の設計目標であったリチウム流速の達成や、原型加速器の入射器の搬入開始が喜ばしい成果と評価され、今後計画通りに原型加速器の入射器の据付調整がなされることが望まれた。

IFERC事業では、核融合計算機シミュレーションセンターの高性能計算機を用いて得られた多くの成果や原型炉設計・研究開発活動による成果が評価された。また核融合炉の安全性研究の第一段階の報告について了解され、第二段階の開始が承認された。さらに、原型炉設計・研究開発調整センターの活動の増強を含め改訂された貢献分担表が承認された。

サテライト・トカマク計画事業では、日欧の調達活動に

よる進展,特に組み立ての開始が喜ばしい成果と評価された. また,運営委員会では日本のホストサポートの状況について,特に青森県や六ヶ所村による欧州研究者の家族のための国際学級幼少部の設置準備や医療サービスの提供について感謝の意が表された.

23日の晩には文部科学省主催で歓迎レセプションが六ヶ所村のスワニーで開かれ、地元の有志による日本舞踊も披露され懇親を深めた.

次回の運営委員会は、2013年12月17日にフランス、サクレーで開催される予定.

## 2. ITER 遠隔実験センターに関する第一回日欧技 術会合を開催

IFERC 事業活動の一つである ITER 遠隔実験センターは、遠隔実験のための技術課題を解決し、ITER に向けた遠隔実験センターを構築して、幅広いアプローチ活動の期間中に日欧のトカマク型核融合装置を用いた遠隔実験の実証を行うものである.

この遠隔実験センターについて、日欧の関係者が集まり 六ヶ所の国際核融合エネルギー研究センター(4月24日) と那珂市の那珂核融合研究所(4月25・26日)において、 第1回の技術調整会議を開催した(図2参照)。この技術 会合においては、昨年度BA運営委員会で承認されたITER 遠隔実験センターの全体計画に基づき、実施に向けた枠組 みの議論を行った。本会合においては、各項目の日欧の担 当者、全体スケジュール、各項目の実施内容の検討作業を 行うための最初の調達取り決めの等内容について議論が行



図 1 第12回 BA 運営委員会の参加者 (4月23日六ヶ所村の国際核融合エネルギー研究センターにて).

われ、日欧関係者間での合意を得た.

### 3. 遅い春を迎えている青森

今年は、青森では例年になく遅い雪や低温などもあって、桜で有名な弘前城においても五月の連休中に開催された桜祭りの期間中に城内の桜がなかなか満開にならず、春

の訪れが待たれていた。六ヶ所村でも 5 月 $11 \cdot 12$ 日にはまだ桜の花も咲きそろわない大石運動公園で"たのしむべフェスティバル"が開催され(図3参照),その後ようやく春らしい陽気が戻りつつある。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)





図2 第1回遠隔実験センター技術調整会議(左:4月24日六ヶ所村の国際核融合エネルギー研究センターにて、右:4月25・26日那珂市の那珂核融合研究所にて).









図3 六ヶ所村で開催された"たのしむベフェスティバル"(左上から、会場入口付近の様子、葉がもう出てしまっているが5分咲きの桜、花火大会、原子力機構のブース、5月11・12日六ヶ所村の大石運動公園にて)。